

令和元年度 第2回健康寿命日本一おおいた創造会議

(令和2年2月18日開催)

【議事】 (1) 健康寿命延伸の取組(健康アプリ「おおいた歩得」の運用状況、新機能の報告、「まず野菜、もっと野菜」プロジェクトの報告)

(県健康づくり支援課) 10月の「みんなで伸ばそう健康寿命」推進月間を含む9月から11月の3カ月間の関連イベントについて、564回の開催、164,814人の参加者数で目標16万人の達成を報告。「おおいた歩得」についてダウンロード数40,692達成、利用者の状況、新機能「おおいた図鑑」「温泉めぐりスタンプラリー」等の実施状況を報告した。「まず野菜、もっと野菜」プロジェクトとして野菜を食べようキャンペーン、ぱっと野菜料理コンテスト、レシピの作成・配布、クックパッド等でのPRを報告した。

【議事】 (2) 健康寿命延伸にかかる各団体・応援企業の取組

(おおいた産業企業会・キューピー株式会社) 一皿でも食事になる「おんせん県サラダ#桶サラ」取組事例を報告。大分県の健康寿命延伸を「地産地消」と「サラダ」で応援、地元ホテル、レストラン、スーパーと協働して啓蒙活動を展開していることを報告。試食あり。

(株式会社トキハインダストリー・森永乳業九州株式会社) 健康寿命日本一おうえん企業同士の協働活動として、地域住民向けに健康応援フェアを開催。腸内フローラを学ぶ! ビフィズス菌で大腸健康セミナー(200名)を実施。健康寿命につながる取組を地元で発信する共同企画を報告。

(株式会社ロッテ) 「ガムを噛むこと」と「ウォーキング」を組み合わせた新しい取組の紹介や、「健康寿命日本一おおいた推進フォーラム」ブース展示にて咀嚼力チェックなどの活動を報告。9月の歩いて応援! 大分トリニータウォーキングイベントで、おおいた歩得に協力しミッションポイントでガムを配布し、「噛むウォーキング」、噛むこと・歩くことの大切さ普及したことを紹介。

【議事】 (3) 受動喫煙防止対策の推進に向けて

1) 県内の取組

(県健康づくり支援課) 令和元年9月17日から10月末まで開催したコンビニエンスストアとの共同による受動喫煙対策実証実験の結果について報告。実証実験後、県内全体のコンビニエンスストアのうち灰皿のない店舗は42店(8.5%)から118店舗(23.8%)となったこと等を報告。県内の飲食店における受動喫煙対策に関する実態調査では、令和元年8月時点で6割の飲食店が店内完全禁煙であり、令和2年4月以降は7割の飲食店が完全禁煙を選択するが、小規模店舗では15.4%が喫煙可、5.4%が喫煙専用室を設置するという意向であったことを報告。

(中津市) 中津市の喫煙率は県内の市町村の中で最も高く、お試し禁煙パッチ無料配布事業を開始したこと、気軽に立ち寄れる薬局で、専門的な指導、助言をうけられ禁煙成功者を増やすことを目的にしていることを報告。現段階の利用者は205名。

(大分大学) 大学全体で順次、敷地内全面禁煙を進め2011年大学全体を禁煙化、勤務時間内も禁煙の規定。職員、学生の禁煙希望者へのサポートを実施、地域への市民講座など啓蒙活動も開催していることを報告。4月には職場の受動喫煙をゼロにするためのトップマネジメントセミナーを予定。

2) ミニレクチャー「我が国の受動喫煙防止対策と今後の方向性」産業医科大学 産業生態科学研究所 大和浩教授

第一種施設である学校、病院、行政機関は敷地内禁煙、第二種施設、一種施設以外は屋内禁煙、そしてさらには屋外でも禁煙、ということが増進法には求められている。これは「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」が根底にあり、喫煙と受動喫煙が死亡を起こすことは明白に証明されているので、全世界でたばこを抑制しましょうという国際条約である(以下省略)。

【議事】 (4) 今後の取組

(第二次生涯健康県おおいた21喫煙部会 井上委員)

『受動喫煙対策推進アクションプラン』～たばこの煙で不快な思いをする人を減らすために～の4項目について説明。県の調査で「たばこの煙で不快な思いをした」という人の割合60.4%をいかにして減らすか、不快な思いをした場所である飲食店、路上、職場での受動喫煙をなくすために具体的な取組を取りまとめたことを報告し、本会議のメンバーの幅広い団体、機関等でも取組の後押しをお願いしたいと説明した。

(食品衛生協会) 協会は1万5,000事業所、加入率は6割、15支所あり。受動喫煙対策について県と協力して普及啓発にとりくみ、安心して利用できる飲食店を増やしたい。

(学校保健会) 小・中・高校では喫煙防止教育を発達段階に応じ実施。学校薬剤師等の支援を得て、専門家の助言に基づき取組んでいると報告。